

2 1 9

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第4回です。

Gくんと同じくとびっきりの素直さを持っていたのがMさんでした。Mさんは本当にまっすぐな性格でした。小5半ばでの入会時の彼女の言葉をよく覚えています。

「私はこのTOPでがんばって、1番になりたいと思います。」

みんなはTOPの1番がどれだけ努力しているか、どれだけのレベルかをよく分かっているので、この発言にはいささか驚いていました。でもMさんには、そんな言葉をためらわずに口にするような子どもらしさがありました。

彼女は不器用でとてもクラスの上位とは言えませんでした。言われたことをいつも一生懸命にやろうとしていました。

感情が豊かで、授業中にはよく笑い、授業で深い話をすると、時に涙しながら聞いていることもありました。

面談の際には、お母さんが「TOPは日本一の塾だ、私は日本一の塾に通

っているんだってよくそう言うんです。」とおっしゃっていました。卒業式では地球のどこにもない…と言っていたので、私たちも少しは成長したのかもしれませんが(笑)

Mさんはおっとりしていて何をするにも時間がかかりましたが、だからと言って楽な近道に逃げようとはしませんでした。

そして彼女はとても丁寧で、美しいと言っていいほどの字を書きました。この丁寧さと、奥に秘めていた芯の強さが、後に大きく彼女の未来を拓いていきます。

同じく途中入会のAさんもなかなか丁寧な字を書きました。小5終盤、他塾で伸び悩んでの転塾でした。Aさんも愛嬌のある素直な性格で、とても陽気なキャラクターでした。

ですが、Aさんにとっての丁寧さは本来の目的とズレてしまっていました。入会当初、授業中は顔を上げずにノートを取り、課題では考えないままただただ作業的にまとめ、出来上がったノートのキレイさだけに満足してしまっていました。私たちは、理解することが全てに先立つ前提であること、ノートはそれを記録し助ける手段に過ぎないことを何度も何度も伝えました。聴く時は必ず顔を上げさせ、解説には常に「なぜ」

を追究させました。

なかなか頭を使おうとしないAさんは、どのテストでもクラスの最下位でしたが、それでもAさんはTOPにこだわりました。そして本当に少しずつですが、TOPの一員としての自信や考える楽しさを手にしていきます。

(次回につづく)

2020年9月25日

大井 雄之